

2020年7月10日

あやべ市民新聞(4面)に掲載されました

## 異種金属の 接合技術を進化

日東精工が新商品販売へ

東証一部上場の日東精工(本社・井倉町、材木正己社長)はこの

アクロースハイブリッドの製品。「板部+軸部(2段)(上)」と「板部+段部+軸部(3段)」日東精工提供



ほど、異なる金属を強固に密着させる接合技術「アクロース」を更に進化させた「アクロースハイブリッド」を開発した。自動車、家電、電子機器、インフラなどの各業界をターゲットとして今年10月の販売開始を予定し、2021年度には月産100万個の出荷を目指している。

アクロースは、当社が2018年に開発して特許を取得した接合技術。当社によると、近年は軽量化や低コスト化のために異なる金属材料やほかの材料と組み合わせる「マルチマテリアル化」の流れが強まる中、部材間の導電性が重視される電池業界を中心に高い評価を得ていたという。

これを進化させたアクロースハイブリッドは、アクロースで接合された部品を接合材料に適した条件で熱処理することにより、接合界面における原子の相互拡散を生じさせ、接合界面の密着性を原子レベルにまで向上する金属接合技術。

拡散接合が難しい材料にも対応できることや、接合部の安全性が向上することに加え、大量生産ができるというメリットもある。同社は「持続可能な社会

の実現につながる取引先のモノづくりを、軽量化、資源の効率化などの面からサポートしていきたい」としている。

【高崎健太】